

第19回釧路新産業創造研究会

様々な事業の可能性学ぶ

サステナブル農業など

【釧路発】サンエス電気通信㈱（釧路市）の宮田昌利社長が会長を務める釧路新産業創造研究会は3日、釧路市内のANAクラウンプラザホテルで第19回研究会を開催した。写真Ⅱ。宮田会長をはじめ約50人が参加。釧路地域におけるサステナブル農業や健康・医療など様々な事業の可能性について知見を広げた。

開催に先立ちあいさつに立った宮田会長は、これまでの同会の活動について「研究会もこれまで3年目に入り、昨年から実用化に向けて事業を絞り込んできた」と振り返り、様々な事業の進捗状況を紹介した上で、実り多い研究会になるよう期待した。

研究会では、はじめにスウィートベジタブル㈱の松原浩代表取締役CEOと小林豊代表取締役CEOが「エネルギー産業と農業の融合によるサステナブル農業の実現」と題して講演し

た。高品質・高機能な野菜の安定供給ならびにサステナブルな農業の実現を目指す同社の事業内容や背景などを紹介したあと、供給不足が見込まれるパプリカの国内市場について説明。夏の生産量安定化に向けた温室の冷房技術、生産量増加に向けた補光技術、地域の未利用エネルギーや電力等のエネルギー活用技術など同社の持つ技術を紹介した上で「本事業では、夏は涼しく、エネルギーインフラが豊富であり、物流の利便性が高い釧路市での栽培が

ら事業を始める」と話し、市内で温室の建設を予定していると明かした。

続いて、アルプス薬品工業㈱の小野光則経営・技術上席顧問が、釧路地域の健康寿命延伸事業について事業提案。釧路地域における豊かな自然・食材など観光産業に触れ「観光客を一定期間滞在させることが重

要」と強調し、シニア層への未病ケアの方向性を説明した上で「健康寿命延伸システムが労働生産性に良い影響を生めば、健康と産業を融合したヘルスケア産業という新たなビジネスが創生できる」と可能性を示した。



このあと、㈱日本薬志の土井尚人社長が「新たな医薬標的探索〜優れた技術で地方から世界へ」と題し、メモリーB細胞を活用した抗体産出など創薬研究の可能性について紹介。釧路地域の持つ強みを生かした研究の方向性を示し「地域から世界を変えていきたい」と展望した。

サンエス企業グループ代表 宮田昌利が会長を務める「釧路新産業創造研究会」の関係記事です

12月5日付の北海道建設新聞にも同様の記事が掲載されました